

だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができますよう

司祭 シモン 林 永寅

今日ご一緒に読んだ福音書の内容はとても馴染み深いので、敢えて説明が要らないほどでしょう。

ところで、この内容には謎もあります。他でもなく「五つのパンと二匹の魚」をもって、男だけでも5千人ほどの人々が満腹になったと記されているのです。ここに女性や子供、老人をも含めれば2万人を超えるからです。当時のイスラエルの人口は約50万人であると推測されますので、2万人ほどの人々が集まったことをローマ総督やヘロデが知っていたら反乱が起きたと考え、大騒ぎになったはずですが、それで、「五つのパンと二匹の魚」の物語は誇張された昔話のようにも考えられます。

けれども、福音書の物語は意味、メッセージを伝えるためのものです。そのメッセージとは、このように多くの人々が集まったというのは、霊的に渇いている人々がそのように多かったという意味であり、多くの人々がイエス様によって恵みを受けたということを知らせるためのものです。つまり、「神様はいつも共にいて下さり、命の糧を与えてくださるので、安心しなさい」という意味です。

この「神様がいつも私たちと共にいて下さり、私たちを守ってくださる」というメッセージは、私たち信仰の根本的な内容です。そして、神様の深い愛を示してくれるメッセージです。その愛が際立って表れたのが、エジプト脱出の出来事であり、荒れ野でマナを与えてくださった出来事です。そしてイエス様が再びこのような恵みの業を行われたのです。

福音書の内容に注目してみましょう。多くの人々がイエス様を尋ねて人里離れたところまで来ました。ある人たちは病人を連れて来ました。彼らはそこで教えも聞いて癒しをうけました。ところが、夕方になると、弟子たちは困り果てました。夕食が心配になったのです。弟子たちが持っているのは「五つのパンと二匹の魚」だけでした。それでイエス様に「群衆を解散させてください」と頼みました。

しかし、私は、困り果てた弟子たちの様子を通して今日のわたしたちが直面している現実を考えてみました。当時の弟子たちが「群衆を解散させてください」と頼んだ状況が、コロナウイルスの感染者が増えて再び会衆参加の礼拝を中止にした今日の私たちの状況と重なって見えました。しかし「群衆を解散させてください」と頼んだ弟子たちにイエスは予想外の反応を見せてくださいました。イエス様は弟子たちに「あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい」とおっしゃいました。弟子たちはその意味がよくわかりませんでした。ここは人里離れたところですが、急に2万人分のパンを一体どこから得られるのでしょうか。いったいイエス様はどういう意味でこのようにおっしゃったのでしょうか。このみ言葉が、会衆参加の礼拝が中止になった状況の中で霊的に渇いている私たちのためのみ言葉でしょうか？ 私は、イエス様はみ言葉と共に行動を持って示してくださいましたので、その後、その示してくださったイエス様の様子の中に私たちへのメッセージがあると思います。だとすれば、それは何でしょうか。それは神様に捧げる賛美の祈りです。つまり、神様に捧げる「感謝と賛美の祈り」を通して問題を乗り越えていくことができるということです。

私のこのような話がナイーブだと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、けれども、信仰者にとって問題解決は思いもかけない意外な方向から訪れることもあります。それが奇跡のようにも見えます。大事なことは難しい状況にあっても神様に「感謝と賛美の祈り」をささげることです。イエス様はその模範を見せてくださいました。聖書を注意深く読むと、イエス様の賛美の祈りが奇跡を起こした力であるということが分かります。

もう一度福音書を見てみましょう。人々はイエス様が人里離れた所に行かれるといううわさを聞いて追って来ました。ところで、このように人里離れたところまで来る際、何の準備もせずに来たのでしょうか？ おにぎりのひとつも準備をしてきたことでしょうか。しかし夕暮れになり、お腹がすいていましたが、皆イエス様の教えに集中しているから、自分だけが食べ物を取り出して食べることはためらわれたでしょう。皆互いに他人の様子をうかがったことでしょうか。そこでイエス様がパンと魚という粗末な食べ物を取って、感謝と賛美の祈りを捧げると、そこにいた皆の心が開いたのです。それで、持ってきた食べ物を互いに分かち合いながら食べることになったのです。そして皆が満腹になりました。感謝と賛美の祈りは、人々の心を開いてくれますし、神様の心まで動かします。

それゆえ、何よりも重要なのは、難しく大変な状況でも「感謝と賛美の祈り」を捧げようという心です。これは、神様はいつも私たちと共にしてくださいという信仰の告白でもあります。そして「感謝と賛美の祈り」は人々の人生を変え、社会を変え、現実を変えていく力になります。

ところで私が、福音書のみ言葉の中で「群衆を解散させてください」という弟子たちの言葉が気にかかったのは、会衆参加の礼拝の中止が長くなるのが心配になったからです。長い間礼拝が中止になると、祈りが疎かになり、聖書を読まない傾向もあるからです。そのような姿が荒野で彷徨っているイスラエルの民らの様子のように理解されることもあります。それで皆さんに、「礼拝が中止になっている状況でも私たちを導いてくれる『雲の柱と火の柱』に頼りなさい」と申し上げたいと思います。エジプトを脱出したイスラエルの民がカナン地の地に入ってきた時、異邦人の攻撃もあって、どこに定着すればいいのかわからず、あちこち彷徨いました。その時、神様は彷徨っている彼らに「雲の柱と火の柱」を通して行く道を照らしてくださいました。その記憶を忘れてはいけないというのがネヘミヤ記のメッセージです。

それでは、私たちにとって「雲の柱と火の柱」はどういうもののでしょうか。私が強調して重ねて申し上げたように、それは「聖書と祈り」です。詩編にも「あなたの御言葉は、わたしの道の光、わたしの歩みを照らす灯」と記されているでしょう。ですから、聖書と祈りが私たちの心を照らしてくれる「雲の柱と火の柱」です。私は、これを強調することが、「あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい」とおっしゃったイエス様のみ言葉に従うことであると思います。

けれども、「聖書と祈り」を通して得られる恵みは、それだけではありません。聖書朗読と祈りを続けければ、神様がイスラエルの民にマナを与えて下さったように、私たちにも魂のマナを与えてくださいます。今日のネヘミヤ記に、「あなたの優れた霊を授けて、悟りを与える」というみ言葉が記されています。このみ言葉はまさにそのような意味です。それゆえ、聖書朗読と祈りを続けければ、神様は間違いなく優れた霊を授け、悟りを与え、魂のマナも与えてくださるでしょう。

今日ご一緒に読んだローマ書は、使徒パウロがローマにいる信者たちに送った手紙です。ローマのクラウディウス皇帝は西暦 49 年頃、ローマからすべてのユダヤ人を退去させる勅令を發表しました(使徒 18:2)。その時、キリスト人も一緒に退去させられました。けれどもある人々はローマに隠れ

て過ごしていました。パウロはそのような状況を知って、励ますために送った手紙がローマ書です。このローマ書を通してパウロはこのように尋ねています。

「だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができます。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。」(ローマ 8:35)

さて、この質問はローマの信者だけに向けたものではありません。コロナウイルスのせいで不安を抱き、苦しんでいる私たちに尋ねている質問のように聞こえます。私たち信仰者は一人でこの難しさを耐え忍ばなければならないのでしょうか？ 私たちが神様の愛から離れているのでしょうか？ パウロは、はっきりとした口調で、このように私たちの未来について教えてくれています。

「わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています。」(ローマ 8:37)

そしてこのようにも確信させてくれています。

「わたしは確信しています。死も、…他のどんな(もの)も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」(ローマ 8:38-39)

このような信仰が私たちの直面している厳しい現実から希望へと導いてくれるでしょう。そして、この信仰こそ私たちを救いへと導いてくれる力になります。ですから、「聖書と祈り」という「雲の柱と火の柱」に頼り、前に向かって進んでいきましょう。

この一週も神様の限りない恵みに頼り、「輝かしい勝利を得られる」日々になりますようにお祈りいたします。